

令和6年度 区長挨拶 要旨

皆さんこんにちは。この地区展開報告会、非常に楽しみにしてきました。これまでも様々な、社協としての会もありました。また、あんすこを委託されている事業者の方の報告会も聞いたことがあります。それぞれの地区で、まちづくりセンター単位で、あんすこ、社協と、またまちセンと、プラス児童館ということになりましたけれども、どんな事例があるのか、今日3事例の発表があるかと思います。

なぜ、この世田谷型地域包括ケアというスタイルがスタートしたかというお話を一つだけしたいと思います。私が区長に就任したのが、2011年、平成23年、今から14年前、東日本大震災があって、原発事故があって、その翌月でした。就任してすぐに車座集会、これはまちづくりセンターで行ったわけですが、当時27カ所巡回をして、いわば若葉マークの新人の区長として、世田谷区民として、何を一番この行政に求めたいのか、あるいは常々感じていることは何なのかというお話をしてもらったところ、大体1カ所において17、8人から20人、合わせて計算すると500人ぐらいの方の意見を、特にこういう意見をお願いしますという設定なく聞いたわけなんです。一番多かったのが、この今日のテーマ。いざ、介護が必要となる状態に連れ合いがなって、大変困ったと。区の福祉にお願いしようと思うんだけど、どこに電話をしたらいいのか。また、ホームページを見ても、たくさん福祉のコーナー、情報はあっても、肝心のところ、どこに一体連絡すればいいのかがわからなかったという、いわゆる窓口がよくわからない問題。また、窓口に行って、ここではないので、もう一つ別のところに行ってくださいと。そこに行ってみたら、実はここでもなかったんですみたいな話も聞きました。福祉の窓口っていうのが、もっとはっきり見えてほしいと。そして、どんなことが地域福祉のサービスになるのかも知りたいということでした。

そこで、28カ所のまちづくりセンターに、当時は27でしたけれども、二子玉川が加わって28になったんですが、あんしんすこやかセンターも、介護保険の制度スタート時に、ちょうど27地区にきれいに、まちセンの守備範囲ごとに設立をされていました。それぞれの事業者の方が事務所を置いてました。しかし、一部を除いてほとんどまちセンの外にあったんですね。それは、介護保険発足当初は大場区政で、まちづくりセンターは窓口機能が全部ありましたので、職員20数人がいるということで、とてもあんすこが入る余地はなかった。その後、熊本区政で、ぐっとその窓口を減らしましたので、窓口があるところを出張所と呼び、窓口が相当縮んだところをまちセンと呼びましたので、このまちセンについては、そんなに大勢の職員がいるわけではないという変化があったんですね。

そこで、一体化ということで、三位一体で福祉の相談窓口を作ろうと準備して、昨年でスタートして10年になります。10年かけて出来たことというのは、世田谷区では案外当たり前になっているかもしれないんですけど、あえて他の地域から引っ越された方、あるいは他の自治体で働いていた方から見ると、とても特徴があることらしいということも、もう一度ですね、原点に帰って、私たちはその区民のニーズからスタートした福祉の、いわばワンストップ相談窓口、もちろんそこで全部が解決するわけではないですけど、スタートさせたんですよ。そして、一人一人の悩みは個別に区役所の所管ごとに分かれているわけではないので、たくさんのことを横断していくつもの課題を抱えている方がほとんどですよ。区の行政って、やはりかなり専門職の方がたくさんいて、それぞれの分野分野で深めてらっしゃいますけれども、横串を指す現場っていうのは、やはりその居住権、生活権だと思います。なので今日の3つの発表からですね、じゃあ10年経って、さらにどこにこの地域包括ケア、世田谷版地域包括ケアを進めていけるのか、ということと共に考え、また実現していきたいと思います。今日はお集まりいただき、またこれから発表していただくということで期待をしています。以上になります。ありがとうございました。